

川島 雄三（かわしま・ゆうぞう）

1、プロフィール

映画監督。故郷への反発と自虐性が洗練された都会人的風刺となる。「幕末太陽伝」「雁の寺」など、個性的な文芸作品を世に出した。

<生没>

1918(大正7)年2月4日 ~ 1963(昭和38)年6月11日

<代表作>

映画「幕末太陽伝」「貸間あり」「雁の寺」

<青森との関わり>

下北郡田名部町(現むつ市)生まれ。

2、作家解説

昭和5年田名部小学校卒業、野辺地中学校入学。10年明治大学専門部文芸科に入学。その頃フランク・キャプラ、ルイス・マイルストン、伊丹万作、小津安二郎に私淑。13年松竹入社。18年監督試験に合格、19年第一回作品「還って来た男」(原作は織田作之助の『清楚』)を作る。23本の作品を作るが、喜劇が多い。

19年日活に移ってからは、「風船」「幕末太陽伝」など8本を作る。

33年東京映画に移り、36年「女は二度生まれる」「雁の寺」を大映で作った。

34年の東宝映画「貸間あり」は、井伏鱒二原作で、脚本は藤本義一と共作。この作品の制作経過は、藤本の小説『生きいそぎの記』に書かれた。すさまじい生き方が、「サヨナラだけが人生だ」のテーマのもとに描かれた。

38年6月11日、芝の日活アパートで急逝。